



あした 未来へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

九月十九日は「保線安全の日」。
安全意識を高める取り組みを実施し、
十一の保線職場にて約九百名が参加しました。

J

R北海道では、九月十九日を「保線安全の日」としています。これは、平成二十五年九月に発生させた大沼駅構内での貨物列車脱線事故と二連の事故の反省に立ち、それらの出来事を振り返るとともに

再発防止への思いを風化させないために、事故の翌年に制定したものです。今年も九月十五日に、十一の保線職場において約九百名が参加しました。



須田征男会長による「安全講話」。

岩見沢保線所では三つの管理室と協力会社の社員が岩見沢市民会館に集まり、取り組みを報道公開。冒頭の安全講話の中で、約五十年にわたり保線業務に携わってきたJR北海道の須田征男会長が「保線業務は目立たないが鉄道会社の安全に関わる非常に重要な業務であり、線路がしっかりしている

会社は経営そのものもしっかりしている、と感じるものである」と話しました。その後、大沼駅構内貨物列車脱線事故DVDの視聴などを行ったのち、「私たちの考動発表」へ。

今年から始まったこの取り組みは、社員一人ひとりが取るべき行動として、平成二十七年四月一日に定めた行動指針『私たちの誓い』と、実践した事例を共有し合うもので、全保線職場にて実施しました。なお、『私たちの誓い』は、「お客様の命を守ります。社員の命を守ります。」「安全第一、安定第二、危ないと思ったらすぐに列車を止めます。」「確かな技術力」身につけ、磨き、伝えます。など、全七項目からなっています。

岩見沢保線所では、岩見沢・滝川・富良野の各管理室がそれぞれの事例を発表しました。プログラムの最

後には、事例を用いたグループディスカッションを実施。ルール違反になる場面に直面した事例を題材に、その対応について取るべき手段や最善策などを十一のグループに分かれ、熱心に議論しました。

鉄道の安全を支える保線業務。JR北海道は、安全を最優先とする鉄道会社であり続けるために、これからも社員一人ひとりが過去の出来事を振り返り、確かめながら、日々の業務に取り組んでいきます。



グループディスカッションでは熱心な議論も。